

# 令和2年度 第1回豊後高田市総合教育会議議事録

日時 令和2年2月12日（金）13:25 開会

場所 豊後高田市役所高田庁舎3階  
301会議室

出席者 市長 佐々木 敏夫  
教育委員会  
教育長 河野 潔  
委員 大嶽 由美子  
委員 高井 郁郎  
委員 宮崎 みゆき  
委員 松成 康男  
事務局  
市総務課長 佐藤 之則  
教育総務課長 植田 克己  
学校教育課長 衛藤 恭子  
教育総務課総括主幹兼総務管財係長

近藤 教夫  
市総務課参事兼総務法規係長  
小野 政文

報道関係 大分合同新聞豊後高田支局長

佐藤 章史

企画情報課広報担当

市ケーブルネットワーク担当

=====

## 1. 開会

### ○市総務課長 佐藤 之則

皆さん、こんにちは。市総務課長の佐藤でございます。進行をさせていただきます。

本日の出席者は、佐々木市長、河野教育長、大嶽委員さん、高井委員さん、宮崎委員さんです。松成委員さん、6名全員の出席でございます。

ただ今から、令和2年度第1回豊後高田市総合教育会議を開催いたします。

開会にあたりまして、皆さんにご了承いただくことがございます。

この会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」で、原則公開となっております。法の趣旨にそって、公開で開催させていただき、会議録につきましても、ホームページで公開させていた

だきますので、ご了承願います。

それでは最初に、佐々木市長よりごあいさつ申し上げます。

## 2. 市長あいさつ

### ○市長 佐々木 敏夫

皆さんこんにちは。

本日は、たいへんお忙しい中、令和2年度の総合教育会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

教育委員の皆様方には、日頃より、豊後高田市の教育のまちづくりに関し、ご理解とご協力をいただいていることに、衷心より感謝を申し上げる次第であります。

さて、ご案内のように本市は、住みたい田舎ランキングの「10万人未満の小さな市の部門」で、3年連続総合部門第1位となり、9年連続のベスト3入りを果たしました。加えて今回は、昨年よりもさらに評価を上げ、若者・子育て・シニアを含めた4部門すべてでトップに輝いたところであります。

人口動態では、7年連続の社会増も達成したところでございます。

これらは、本市が誇る「教育のまちづくり」と「子育て支援施策」が高く評価されての結果であり、たいへん嬉しく思っているところでございます。

一方、教育現場におきましては、新型コロナウイルスの影響により、昨年3月以降、市内幼稚園、小学校、中学校は、教育活動に大きな変化を求められることとなりました。

いまだ先の見えない戦いではありますが、関係者一丸となって創意工夫し、子ども達の資質・能力を高める教育活動を充実させていかなければならないと思っております。

本日は、皆様からのご意見をいただきながら、豊後高田市の未来を担う子ども達の教育について、一緒に考えていただきたいと思います。

最後まで、よろしくようお願い申し上げます。

### ○市総務課長 佐藤 之則

それでは、協議・調整事項に移ります。

会議は、豊後高田市総合教育会議運営要綱第2条第3項に基づき、市長が議長として議事進行を行うこととなっています。

佐々木市長、よろしく申し上げます。

### 3. 協議・調整事項

#### (1) 児童・生徒の学力、体力について

○市長 佐々木 敏夫

それでは、議長を仰せつかりましたので、会議を進めてまいります。

6点の協議・調整事項についてですが、まず、児童・生徒の学力、体力について、事務局から説明をお願いします。

○学校教育課長 衛藤 恭子

こんにちは。学校教育課長の衛藤です。今日はどうぞよろしくお願いいたします。

座って説明させていただきます。

資料の3ページをご覧ください。令和2年度の各種学力調査の実施状況と、その結果についてご説明申し上げます。

まず、学力調査は、子ども達の学力や学習状況を把握分析し、これまでの教育施策並びに各学校での成果と課題を検証し、その改善を図るとともに教育に係る継続的なサイクルを確立するためのものがございます。併せて子ども達自身が自分の学力を把握し、学習への取組みを見直し、次の学習への目標を定めるためのものでもございます。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で全国一斉の休校期間もあったため、全国調査並びに大分県の調査は、実施方法が例年と異なっております。

まず、全国学力・学習状況調査におきましては、全国一斉の調査は中止となりました。しかし、調査問題は提供されましたので、本市におきましては、8月24日を市内一斉の学力調査の実施日とし、調査を行いました。採点におきましては、自校で教職員が採点を行いました。

結果につきましては、昨年度との比較しかできませんけれども、中学校の数学が下回っております。中学校の国語、小学校の算数・国語については昨年度を上回る結果となっております。

続きまして、大分県学力定着状況調査につきましては、こちらも県下一斉の調査は中止となりました。しかしながら県の方針として、6月22日から25日

の期間で実施できる市町村は実施をということでございました。本市では6月24日に、市内一斉に学習調査と質問紙調査を実施いたしました。そちらに他市の実施状況も記載させていただいておりますが、小学校が8市町村、中学校は9市町村が参加しての調査となりました。そのため、県の平均値は、その参加した市町村の児童生徒数が母数ということになりました。

本市の結果でありますけれども、県の調査は小学校5年生、中学校2年生が対象でありましたが、小学校中学校ともに、県平均、目標値を上回っております。特に、昨年度調査で課題となっております中学校の数学、英語には改善がみられております。

続きまして、資料の4ページをご覧ください。こちらは、豊後高田市の学力定着状況調査でございます。12月16日に全市内の小学校3年生から6年生、そして中学校1年生、2年生を対象に実施いたしました。4ページの資料には全体の結果を載せておりますが、一番下の欄をご覧ください。

3年生から6年生までの国語、理科、算数の3教科、小学校は国語、算数のみですが、このうち国語と算数につきましては、おおむね達成できているといえます。4年生から6年生の理科につきましては、課題が若干残っております。

では、次のページから、各教科ごと、学年ごとに簡単にご説明申し上げます。

5ページをお開きになってください。小学校3年生の結果であります。最初に国語でありますけれども、全ての分類、区分において目標値、全国の平均正答率を上回っており、良好な結果であるといえます。しかしながら、無回答が20%ほどありましたので、記述する力が今後必要になってこようかと考えております。

二つ目の算数につきましては、全ての分類、区分において、目標も全国の正答率も上回っており、良好な結果となっております。

続きまして、6ページをご覧ください。小学校4年生の結果です。国語については、全国的な事項を超えているものの、活用、やはり記述する力に関しては課題が残っております。2番目の算数につきましては、全ての分類、区分において目標値、全国正答率を上回っており定着しているとみてお

ります。3番目の理科につきましては、記述式問題以外は、目標値も全国正答率もそれ以下となっており、課題が明らかになっております。

7ページをご覧ください。小学校5年生の結果です。3年生同様、すべての分類、区分で目標値および全国平均正答率を上回っており、定着しているといえます。算数につきましても、すべての分類、区分において目標値および全国平均の力がついていることが見て取れます。理科につきましては、ほとんどの区分で全国平均をやや下回っております。特に、雲の量ですとか顕微鏡の倍率の求め方など、定着が不十分な項目が明らかとなっております。4月、5月の実施内容でございましたので、この間、観察等の機会が学習の内容として、方法として十分に実施できなかったことが影響しているのではないかと分析しております。

では、8ページをご覧ください。小学校6年生です。国語につきましては、全ての分類区分で目標値、全国平均正答率を大きく上回り、定着をしております。算数につきましても、全ての分類区分で目標値、全国平均正答率を大きく超えております。理科につきましては、チャート図を見てもくぼんでいる部分もございますが、活用力に課題が見て取れます。

続きまして9ページから、中学校の結果となっております。全体像が9ページに示されておりますが、中学校1年生の国語と理科は、目標値を超えておりますが、社会、数学、英語については、目標値を下回っておりまして、課題が残っているといえます。

中学校2年生につきましては、全教科にわたって、目標値・全国平均を超えており、おおむね習得できているというふうにとらえております。

10ページをご覧ください。教科ごとに説明申し上げます。中学校1年生の国語につきましては、全体として定着していると思われませんが、領域の区分別観点では課題が残っております。社会科につきましては、教科全体で基礎・活用で若干全国平均を下回っておりますが、ほぼ定着できている状態であると捉えております。ただし、情報と情報に関係づけて考える力を今後つけていく必要があるという課題が明らかになっております。数学につきましては、教科全体、基礎活用において目標値・全

国平均正答率を下回っており、こちらについては課題が残っております。

11ページをご覧ください。中学1年生の理科です。こちらは、全ての分類区分で目標値および全国平均正答率を大きく超えており、定着ができてきているといえます。英語につきましては、教科全体、基礎活用において目標値・全国平均正答率を下回っており、課題が残っております。

12ページが中学2年生の資料になります。国語につきましては、チャート図をご覧ください。お分かりのように基礎活用とも目標値を超えており、定着ができていていると考えております。特に読むことにつきましては、長年、東京大学C o R E Fという研究団体と連携して協調学習を行っておりますが、その成果が出ているというふうに思われます。社会科におきましては、教科全体、基礎活用を通して、目標値、全国平均正答率を超えており定着しているというふうに考えております。数学につきましても、全体的に目標値、全国平均正答率と同等の力がついてきております。

13ページをご覧ください。中学2年生の結果の理科です。理科は領域別でエネルギー、生命についての定着状況は良好となっておりますが、項目によっては課題が残っているという結果となっております。最後に中学2年生の英語ですが、教科全体、基礎活用とも目標値、全国平均正答率を超えており、定着してきております。特に活用力について、目標率を大きく超えており、指導の成果が表れてきているかなと捉えております。

続いて14ページには、こういった結果を踏まえて、現在、教師の授業力の向上が児童生徒の学力向上に直結するというところで、教師自身の実力をアップするためにどのような力をどのような方法で、身につけさせていくのかというプランをしっかりと立てていくためにこういった方法で様式を使って授業をしているという資料でございます。

15ページをご覧ください。本市の取組みとして児童生徒に対して自分の考えたことをしっかりと暗記をして伝える力をつけていこうと長年取り組んでおります。このことが思考力・判断力・表現力の基礎となる力になっていこうと捉えております。

続きまして、児童生徒の体力・運動能力について説明をさせていただきます。16 ページをご覧ください。こちらの体力調査を今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で全国調査、県調査については実施をされませんでした。ただ、小学校5年生、中学校2年生に生活習慣に関する調査のみ実施されました。その表は、運動の機会や愛好度等に関する項目の調査を記載させていただいております。本市の傾向として、②の運動・スポーツの実施状況をご覧くださいいただきたいのですが、1. ほとんど毎日(週に3日以上)運動しているという児童生徒は、県平均に比べてかなり上回っております。運動をよくしているということが見て取れるのですが、2つ下の項目、⑩の運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですかという項目に移りますと、好きと答えている児童生徒が県平均を下回っているという傾向があります。今後、運動の大切さの理解や運動習慣、運動の愛好度、ここをしっかりと結び付けていくという取り組みが必要になるかと考えております。

それから、体力調査の実施はなかったのですが、コロナ禍において子ども達の体力の状況はどうかということ、桂陽小学校の6年生を対象に抽出調査を実施してみました。その結果ですね、やはり5月に実施したときには、昨年度すべてクリアしていた項目が下回るような状況にございました。しかし、その後同じ種目を11月に実施しました。その間学校でも、体力づくりをコロナ禍ではありますが、しっかりと取り組んでいきまして、11月にはすべて項目をクリアしているということで、休校後、体力の回復は見られているというふうに考えております。

以上でございます。よろしくお願いたします。

#### ○市長 佐々木 敏夫

はい、説明をいただきましたが、皆さん方からご意見がありましたら発表してください。

#### ○委員 高井 郁郎

はい、学校教育ということではないんですけど、家庭教育に関係したことで、数日前に読売新聞の投稿者欄のところにいいことが書いてあったんですけど、小学校1年生の子どもさんを持つお父さんの投書で、国語辞典、小学校1年生の子どもに国語辞

典を買ってあげて、それを利用してですね、クイズ形式で子どもが国語辞典の中の言葉、好きな言葉を選んで、言葉の説明のところを読んで、親がその言葉を当てるとい、そういうクイズを我が家ではよく遊んでいるということを投書してたんですけど、大変いいことだなと、微笑ましくもあり、いいことばかりなんですけど、第1に子どもにとっては読む力がつき、言葉の語彙が増えて、それと同時に親子のコミュニケーションもよくなり、家庭の雰囲気もおそらくよくなるだろうと、そういうことを感じたところなんです。こういうことが学校教育とは直結しないんですけど、各家庭でヒントになるんじゃないかなと思ったところです。

#### ○市長 佐々木 敏夫

はい、ありがとうございます。

他にないですか。

#### ○教育長 河野 潔

先ほど、市長の方からご挨拶にもありましたけれども、コロナ禍で一変した様子というのは学校教育課長の方から全国学力のこういう、ほぼほぼ中止と、そして全県学力も、こういう半分しか受ける市町村はありませんでしたという説明をさせていただきましたけれども、私は基本的に、大分県が半分しか受けなかったということに対しては、ちょっとショックだったというか、受けないという選択肢はないだろうということは職員に話をしました。私たち現場の教職員が、子ども達の今の力を試す、そういうものすごくいいチャンスを、それを前向きになんてできないのかということ、多少疑問に思ったところなんです。

豊後高田市では、そういう姿勢で全国学力・定着状況調査に臨んで、そして10月になりますとある程度教育課程が、ほぼほぼ取り戻そうとしておりましたので、その時期を見計らって、12月に実施をして、そして分析も東京書籍に頼んで本日説明したような詳細にわたっての今の豊後高田市の子ども達の力というのをある程度目安として分かるような、そういう資料を作ってもらったわけでありまして。

現時点では、4月につくる教育カリキュラムというのは、ほぼほぼ予定通り進行しておりますけれども、ただ、どこまで理解をしているかというのはやはり大きな課題になっておりますので、2月・3月

残されておりますけれども、しっかりとこの辺を子ども達のコロナ禍においても負けない力をつけていきたいと思っております。以上であります。

**○委員 大嶽 由美子**

私たちも、コロナ禍にあって休校があったり、学習の遅れがたくさん出ているのではないかと心配してたんですが、こういう調査結果が出て一安心しているところです。市長さんも随分心配されていたと思うのですが、基礎基本の部分は身につけて、それから体験活動であったり、例えば実験とかの活動というのが少しできにくいところがあるので、それがまたこれからの課題かなと思うんですが、学校現場がこう努力されてある程度の成果をあげているということで安心しました。

**○委員 宮崎 みゆき**

具体的にみると、全国的な成績で、中学1年生の英語が気になるところです。嫌いだと思うとどんどん勉強が嫌になってくるんですね。先生方の指導案の中に、子どもが好きになってくれるような方法というのをちょっと入れていって欲しいなと思います。以上です。

**○委員 松成 康男**

教育長や各委員さんからお話があったとおりで、私も年度当初から学校が通常どおりできないということで、学力の方を心配してたんですが、こういったしっかりとした調査をされて、結果もついてきて非常に安心したところなんですけど、学力以外のところですね、日常的なふれあいだとか、PTAとか修学旅行とかいろいろ制約も出てきているので、そういったところが丸1年、普段とは違う形で過ごしてきていると思いますので、その辺で情緒とか児童生徒の成長に応じてマイナスなところがないのかちょっと心配なところもあるんですけども、言ってもまだ1年ですから、

**○市長 佐々木 敏夫**

はい、ありがとうございます。それでは次に進みますが、今のところの件も含めて、後ほどでも結構ですが、質問があればまた受け付けたいと思います。

**(2) G I G Aスクール構想について**

**○市長 佐々木 敏夫**

それでは2番目のG I G Aスクール構想について、事務局から説明をお願いします。

**○教育総務課長 植田 克己**

教育総務課長の植田です。

それでは私から、G I G Aクール構想について、説明させていただきます。

資料18ページをご覧ください。

G I G Aスクール構想は、1人1台の端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子どもを含め、多様な子ども達を誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層育成できる教育I C T環境を実現する、そういった計画であります。

19ページをご覧ください。

本市においてはこの構想に基づきまして、タブレット端末については県下他市町村と共同調達という方法を取りまして、新たに1,277台導入しました。合計で1,706台ということになります。既に大規模校(高中・高小・桂陽小)を除く小・中学校には、12月末までに配置を完了しているところあります。3校の大規模校につきましても、順次、配布の準備を進めておりまして、3月中には完了する予定となっているところあります。

また、児童生徒数が多い学校につきましては、新たな高速大容量の通信ネットワークの構築、それが必要となります。そのため、現在、資料に掲載しておりますが、5校については現在工事を行っているところでありまして、これにつきましても3月末までには、完成する予定となっております。

現在、12月までにタブレット端末配布している小中学校につきましては、本格的な利用に向け、現在、利用方法などの研修を行っている状況であります。

4月以降の利用につきましては、他市町村では、新型コロナウイルス感染症対策などの緊急時のみの利用という市町村もあるようでございますけれども、本市では、子ども達が家庭でも自主的に学習ができ、学校の授業とも連動させることができるソフト(ドリルパーク)を導入し、基礎・基本の定着を図るとともに、主体的に学ぶ力を身に付けていくため、日常的に利用していくこととしております。

そのため、無線LAN環境のない家庭においても利用できるよう、モバイルルーターを貸与することといたしております。

G I G Aスクールにつきましては以上でございます。

○市長 佐々木 敏夫

はい、それでは皆さん方から質問を受けたいと思います。

○委員 松成 康男

2月10日の大分合同新聞に、別府市のニュースが出ていたんですが、別府市は全員に行き渡るということではなくて、モデル校みたいなところでやっていくということなんですけれども、豊後高田市の方が明らかに先進的などところを行っているというところではないかなと非常に素晴らしいことだなと思います。

あとは、いかに有用に使っていくかだと思いますので、せっかく児童生徒に1台ずつ行き渡るので、教える側の方もものにしてしっかりと児童生徒にも、一人一台は幸せなことだと思いますので、しっかり使っていただきたいなと思います。

○教育長 河野 潔

市長から、ありがたい強い指示が出ておりますので、努力してまいります。

### (3) 学校施設の長寿命化について

○市長 佐々木 敏夫

それでは3番の学校施設の長寿命化について、事務局より説明をお願いします。

○教育総務課長 植田 克己

それでは、学校施設の長寿命化について、ご説明いたします。

まず22ページをご覧ください。

昨年度も、この総合教育会議でご説明させていただきましたが、平成29年度に策定しました「豊後高田市学校教育施設等長寿命化計画」の劣化状況等の評価結果を添付させて頂いております。

対象施設は、市内の全小中学校、幼稚園に、給食センターを加えた、47施設となります。

この表の左、黄色の部分の、「建物基本情報」の中で、ピンクで色付けしている施設が、既に建築から30年を経過しているものです。

その表の表題部、右のほうに「劣化状況評価」という欄がありますが、A～Dの4段階の評価基準に基づき、屋根、外壁などの老朽化の判定を行い、建物全体の健全度を数値で、100点を満点とした場合

にその施設がどれぐらいなのかを点数化しております。

特に「D判定」とされている部分、茶色の濃い色の部分が、劣化の程度が大きく、早急に対策を講じなければならない個所となっております。

例えば、一番上の高田小学校の管理・特別教室棟は、建物全体の健全度は100点満点中34点と、とても低く、特に外壁が「D判定」なので、早急に改修が必要という事になります。

この表に基づきまして、21ページが、健全度及び施設重要度を加味して、個別施設の改修等の優先順位を定めたものでございます。

これに基づきまして、長寿命化の改修を行っていくわけですが、既に、高田小学校教室棟は令和元年度に、本年度は、高田小学校の管理棟について改修工事を行っているという状況でございます。

来年度は、桂陽小学校の教室棟・管理棟を実施する予定としているところでございます。

23ページは、計画を策定する際にすべての施設の経過年度、それぞれの評価ですね、どの部分がD評価なのか、これを基に先ほどの表を作ったわけですが、一部抜粋ですべて47施設すべてを確認させていただいている状況でございます。

なお、24ページ・25ページにつきましては、来年度実施予定の桂陽小学校の状況でございます。建築から40年が経過して外壁に大きな亀裂があったりとかいうことがありますので、来年度早急に実施していきたいというふうに考えているところでございます。

教育委員会といたしましても、本市の子ども達が安全で、安心して学習できる環境を継続していくためにも、やはり、長寿命化には多大な財政負担も伴いますけれども、計画的に整備してまいりたいとそういうふうに考えております。

以上でございます。

○市長 佐々木 敏夫

はい、ありがとうございます。皆さん方からご意見等をお聞きしたいと思います。

まあ、危険度に応じて計画的に進めるということでもありますので、また状況の大きな変化があった時には報告していただけたらありがたいなと思っております。

次に移らせていただきます。

#### (4) 児童・生徒数の今後の推移と 35 人学級制について

○市長 佐々木 敏夫

第 4、児童・生徒数の今後の推移と 35 人学級制について、事務局から説明をお願いいたします。

○学校教育課長 衛藤 恭子

27 ページをお開きください。令和 3 年 2 月 8 日付けの大分合同新聞朝刊の記事を掲載させていただいております。きめ細かい教育へということで、公立小学校が 35 人学級へ移行することが政府の方針で出されております。現在の制度はですね、小学校 1 年生のみ 35 人以下学級で、2 年生から 6 年生は 40 人を上限としております。これを来年度から、小学校 2 年生を皮切りに年度ごとに 35 人学級に移行していくというような流れになっております。

大分県におきましては、2004 年度から始めた独自施策で現在でも小学校 1 年生と 2 年生は、30 人以下学級となっております。そのため、大分県内、豊後高田市内で変化がおきはじめるのは、今の小学校 1 年生が 3 年生になる年に、35 人学級ということで影響が出てくる、そういったところで行っていくような形になります。

現在の児童生徒数は、移住施策等もありまして、1,500 から 1,600 の間で推移していく予定でもございます。学校規模によって、35 人学級によってクラスが増えていくようなことに備えて取り組んでいきたいと思っております。

併せて、28 ページ以降、特別支援教室に係る豊後高田市内の状況ということで資料を載せさせていただいております。実は、特別支援学級、障がいのある児童生徒が学ぶ学級なんですけど、こちらについては、定数が 8 人となっております。クラスの人数が 8 人を超えると、もう一クラス、クラスが分かれていくようなシステムになっております。現在、特別支援学級に在籍する児童生徒の数が年々増加傾向にございます。令和 2 年度で、小学校で在籍している人数が 24 人、中学校で 17 人、一番大きな高田小学校で知的な支援学級に在籍している児童が 6 人おります。今後増えていくと、2 クラスに増えていくような状況もございますので、こちらも併せて推移をみていく必要もあると思っておりますし、29

ページをご覧ください。そういった特別な教育的ニーズのある子どもさんが、やはり増加傾向にあつて、支援学級には在籍しないんですけれども、通常の学級で、特別教育支援員という職務の方を配置しておりますが、そういった方による支援を希望される親御さんですとか、実際に教職員が見取って、支援が必要とされる児童生徒の数が年々増加しているというところを考えていかなければならないと思っております。

30 ページをご覧ください。大まかな数字なんですけど、本市でそういった支援の必要な子どもさんが 7% 在籍していると、それに伴って修学に向けての相談等も年々増えてきておりますし、いろんな関係機関と連携をして、子ども達が安心して、保護者さんが安心して学校に子どもを預けられるような体制をより強化していかなければならないところで取り組んでいるところでございます。

以上でございます。

○市長 佐々木 敏夫

はい、ありがとうございました。今の説明について、皆さんご意見がありましたらどうぞ。

○委員 大嶽 由美子

35 人学級の件ですけど、桂陽小学校に勤めていた時、ちょうど課長も 4 年生で 40 人学級だったと思います。2 クラスにならないで 40 人という、ほんとにすごい多いということで、1 年間苦労されたと思うんですけど、そのあともそういうような人数のクラスが、何回かあったと聞いてます。35 人になると 5 人だけということではなくて、ほんとにありがたいことだなと思っておりますので、是非こういう方向で、他のことも、子ども達の負担も、それから教職員の負担も減っていくと思うので期待しております。

それから特別支援の件も、以前、自分が聞いた時には市内で 6% くらいの子どものさんが障がいを持っていたり、特別支援を希望しているということだったんですけど、年々やはり身近な人たちの中にも、特別支援が必要な子ども達が増えているということで、これについても大きな課題があるなど感じています。

○教育長 河野 潔

特別支援の関係は課長が説明しますが、私からは

まず 40 人学級のこれまでの経過の中であったことですが、現時点でもですね、小学校中学校ともですね、ぎりぎりあるいは一人二人足りなくて、クラス編成が 1 学級増減すると、いうことの状態がありますが、そういう場合は加配の教員をいただいて、40 人の場合は、20 人ずつに分けての学級編成あるいは 39 人でもですね、場合によっては加配教員で対応しているところです。

おそらく、大嶽委員さんたちの時には、それが県や国から認められていなかったと思うんです。今はある程度、緩和されていますので実施できております。ですから、柔軟な対応をですね、しておりますし、今回の 35 人学級でさらにまた 1 学級の人数というのはこれから柔軟な対応ができるのではないかと考えています。

それから、もう一つだけ、移住定住対策で市長が挨拶にありましたけれども、今の田染小学校中学校ともに、全児童生徒の 8 割が移住定住のお子さんによって構成をされています。ですから、このグラフの人数もですね、今後、移住定住対策の中で、ずいぶん変わってくるという可能性を秘めていると思いますので、そういうことで今後に期待をできるのではないかと考えております。

#### ○学校教育課長 衛藤 恭子

特別支援の関係なんですけれども、先日、市の特別支援学級連携協議会ということで、各関係機関の皆さんや県の特別支援教育課の教育主事も参加していただいて会議を行ったんですが、県全体の傾向としてもまだはっきりとした数字としては表れていないのですが、やはり増加傾向であると、大嶽委員さんがおっしゃっていたように、私が担当していた 5～6 年前は 6% という数字だったんですが、今こういう数字が出てきております。

要因については様々なものがあるかと思うのですが、ひとつは発達がいに対する理解が広まってきたことと、親御さんの気づきも早く行われるようになったことであろうかなと考えております。修学前の 3 歳児検診・5 歳児検診等の中でも早く気づきを保健師さんとも行っているような状況でもございますので、それがどうやったところで増えてきているのか自体ははっきりしないんですけれども、状況として 7% というふうに把握をしているところで

あります。

以上でございます。

#### ○市長 佐々木 敏夫

今の 35 人学級で考えられることが、クラス数が増えてくるということで、教職員の不足というものも発生して、県との調整も教育長はしていただいているようではありますが、特別支援の方は、新しく取り組んでいかなければならないのかなと考えております。

それでは先に進みます。

#### (5) 中学 3 年生の進路状況について

#### ○市長 佐々木 敏夫

5 番目の中学 3 年生の進路状況について、説明をお願いします。

#### ○学校教育課長 衛藤 恭子

資料 31 ページに項目のみ掲載させていただいておりますが、実は、いま公立高校の県立高校の入学者選抜出願が来週 2 月 15 日からスタートいたします。子ども達の進路実現のために各中学校において、あるいはご家庭において進路の最終段階を迎えております。

それで、現況としてですね、高田高校の状況についてお伝えをしたいと思います。来年度、定員が 140 ということで、今のところ 135 人前後の生徒が高田高校に出願の予定であるというところでご報告申し上げます。

以上でございます。

#### ○市長 佐々木 敏夫

はい、この点についていいですか。

それでは、ないようでありますので次に進ませさせていただきます。

#### (6) いじめ・不登校対策について

#### ○市長 佐々木 敏夫

6 番目のいじめ・不登校対策について、事務局から説明をお願いします。

#### ○学校教育課長 衛藤 恭子

資料の 34 ページをお開きください。昨年度もこの会で、2 学期末のいじめ・不登校状況調査の結果についてお伝えいたしました。今年度の状況につきまして、ご報告申し上げたいと思います。

まず今年度、2 学期末、いじめの認知件数でございますが、小学校が 184 件、中学校が 105 件、合計



289 件のいじめを認知しております。これはいじめ防止推進法に基づく、定義に基づいたいじめの認知の数ということでご理解いただきたいと思っております。現在の状況であります、小学校において解消が 81 件、中学校が 65 件、これはいじめを認知して、いじめという状況がなくなりましたよという、3 か月が経過して再度子ども達、あるいは保護者に確認して、いじめはもうありませんと、状況は改善していますといったところで、解消したというふうになりますので、こういった数字になっております。現在、取り組み中が小学校で 103 件、中学校が 40 件というような状況でございます。

下の棒グラフを見ていただきますと、過去 5 年間のいじめ、それから不登校状況の推移をみていただくと、いじめの認知につきましては、中学校の方で増えてきている状況でございます。早期からの気づきというところの現れではないかと思えます。気づいたことについて、対処していくことが大事でありますので、そういうふうな取組みを各学校で行っております。

それから下の段が、2 学期末の不登校状況の推移でございます。昨年度、中学校が 27、小学校が 7 ということで、多くの子ども達が不登校状況にあったんですが、今年度 2 学期末は、若干減ってきております。生徒の入れ替わりということはもちろんありますが、学校のやはり家庭と連携した、あるいは関係機関と連携した子どもの状況をしっかりアセスメントを把握したうえで、どのような支援をしていけばよいのか、ということの取組みが表れてきているのではないかとこのように思っておりますし、引き続き、子どもの困りを早くに気付いて、それぞれに応じた支援指導を行ってまいりたいと思っております。更に組織的にということがとても重要でありますので、担任任せ・担当任せではなく、学校組織それから教育委員会も連携して対応してまいりたいと思っております。

35 ページをご覧ください。いじめの対応ということで、どういったいじめを子ども達が訴えているのかといいますと、変わらず、いつも、冷やかしか、悪口とか、文句といったことが多くなっております。ちょっとした一言で傷つく子ども達がいるということで、防止に向けた教育・取組みも

引き続き行ってまいりたいと思っております。

そして、下の段のいじめ発見のきっかけのところをご覧になっていただきたいんですが、小学校では、アンケートからいじめを発見するということが多くなっているんですが、中学校になりますと、本人からきちっと伝える状況というのが生まれてきています。これは、教職員との人間関係が構築されていることや友人関係のところで、ちゃんと自分のきつさを話せる関係が作れているということで、この点は、学校の取り組みの成果ではないかと思っております。ただ、安心安全な学校というのがいちばんでありますので、引き続き、全ての取組みを強化してまいりたいというふうに思っております。

以上でございます。

#### ○市長 佐々木 敏夫

はい、ありがとうございます。いじめ・不登校について、ご意見等ありましたらお願いいたします。

#### ○委員 高井 郁郎

いまご説明がありましたとおりで、最後の方に言われた、本人からいじめが発見されるというのは、非常にいい傾向だと思います。自分で「いじめられている」ということをちゃんとと言えるということは、とてもいいことだと思います。

いじめという議題があるということで、昔読んだ本を昨日また読み返してたんですけど、「いじめの構造」という本が、みぞぐち何とかさんという方が書いた本で、それを読み返してたんですけど、ずいぶん昔といいですか、ちょっと昔の本ですから、もう古い言葉になるかもしれませんが、いじめに関連してクラスの中で、「スクールカースト」というものがあると、クラスの中の力関係が必然と作られていくというふうなことを書いていたんですけど、スクールカーストの高い位置を獲得できるのは、どういう能力のある子どもかということ、3 つあるんですけど、自己主張力があって、2 番目に共感力がある、そして 3 番目に同調力がある。この 3 つの能力が優れた子どもが、スクールカーストが高いところに行く。これが直接いじめに直結するかどうか知りませんが、スクールカーストというのはそういうことで、形作られると書いてました。

自己主張力とか、共感力とか、同調力とか、これ自体は悪いことではないと思います。それが、何か

しらかこういじめの時に利用されるとなるとこれは問題だろうと思います。特に、3番目の同調力というのが一番問題なんじゃないかなと私なりに思ったところです。自己主張力とか共感力というのは何ら問題ないと思うんですけど、同調力とかいうのが何かちょっと癖もんだなど、よく同調は圧力で日本社会は子どもに限らず大人の社会でも、同調は圧力があることによって、空気みたいなのが形作られて、空気を読まないといけないとか、そういうのがよく言われると思うんですけど、まあ、そういうのを感じたところです。

#### 4. 意見交換

##### ○市長 佐々木 敏夫

いいですか。

それでは、このあと意見交換で皆さん方に、いろいろな自由な意見を述べていただきますが、事務局から1番から6番まで説明をいただきました。どの点に触れても結構ですので、どうかよろしく願います。

説明以外のことでも結構です。子ども達に対する思いも含めて願います。

大嶽委員さんからどうぞ。

##### ○委員 大嶽 由美子

やはり、今の一番大きな課題がコロナということで、市長さんもお挨拶の中で言われてましたけど、先の見えない戦いになっていくになると思うんですけど、学校現場で子ども達が、課長が言われたように、安心安全な学校であるのかなということで、コロナの被害とか、予防についてはずいぶん努力されて進んできてると思うんですけど、やはりコロナに一度かかった時に、いろいろな風評被害が出たりとか、他の原因でも学校に行きづらい、結果にも出てましたけれども不登校になりやすいとか、コロナが原因でということではないんですけど、果たして安心して学校に行けるという状況が作れるのかというのが、これからも大変な要因になっていくんだらうなと思います。ただ、安心材料として、コロナ禍にあっても今年度、不登校の子ども達が減ったということは、課長言われたように大変な苦勞をされて努力されて、子ども達が安心してよりよい状況を作ってくれてるんだなということで、ちょっとほっとしました。

これから市長としても、コロナに対して学校現場にどのようなご支援をしていくか頭を悩ましているかと思うんですが、その辺で、これからのことでお考えがあったら教えていただきたいと思います。

##### ○市長 佐々木 敏夫

コロナの問題で学校現場、子ども達、社会全体の問題があるんですが、今ワクチンの問題が起っております。いま国の方も、コロナと経済を両立させようと思うと、また全国にコロナが蔓延すると思っております。そういう意味で、アメリカなんかは国民等しく平等にワクチンを打っていただいて、半年後に2回目を打つなんか、そしたら医学的には効能が薄くなるのか、不安があるという発表もされております。

私はもう平等の前に、コロナをいかに抑えるかと、感染拡大を防止するかと、私は非常事態宣言をいまして重点地区をですね、ワクチンを完全投与して、そうすると大分県の場合は、福岡をたたいてしまえば、いま大分県のコロナは福岡から全部感染が広がっております。そして大分県や他県はまだモグラたたきじゃないけど、出たところを抑え込む、これできております。そうすると東京が全部ワクチンが完了したと、我々、東京に行くのに何も不安がないんですよ。そして東京の人が北海道に行こうがどこに行こうが不安はないんです。そうすることで、短期間に経済が回復する。蔓延防止になる。だから、国民みな平等ということで行くと、ワクチンが終わるまで、何もできないんです。

そういう意味では政治的に、平等に振り回されるんじゃないかと、いかに重点的に抑え込んで、そしてそこから経済活動や交流が自由にできるように、それがひいては学校関係にもつながってくるのかな、こういうふうには、だから大分県も26人ぐらい最高にあがったときがあります。これは病院とか施設のクラスターで、でもそれは封じ込めがおおむね、いま5人10人が発生してもだいたい治まってきています。豊後高田市はご覧のとおり、今まで4回ぐらいコロナが発生しましたがけれども、その瞬間でみな終わっているのかなと、まあそういう意味で、社会全体の見守りも含めて、東京あたりテレビで見ると、どんちゃん騒ぎはやるは、道路で暴れるわとか、もう秩序やら、だから成人式でもテレビで見ると沖

縄なんか暴れるじゃないですか、常識外のことをするんで、まあ今、成人式もありましたけれども、私は、豊後高田市は延期にしております。仮に今年の12月末まで待ってできるんなら12月末までにでも成人式やって年明けてすぐ成人式やっても私はいいと思っているんです。東京あたりは、成人式したよと、20%参加したよと、これ役人の感覚ですね。やったことでキリが付いたんです。全員参加してない。そうじゃない、成人の皆さんにひとつの節目の成人式をみんなにチャンスを与えて思い出を作っていたかという、ここが、やったから終わり、なんかそこが、だから我々、政治行政を預かる者もそうじゃない、生きたものを、だからコロナについても東京、大阪、福岡を徹底してたたいてその人が全部ワクチンで、そうしたら飛行機に乗って東京行くのも、旅行に行くのも、ホテルに泊まっても、食べるのも何も心配いらない。だから早道をどうしたらいいかというこれを考えんでね、だからいま法改正をして罰金制度まで、コロナがどんな状態ですかと、経済も人命にも大きな影響が起こる。食品衛生法で食中毒が起こったら、会社の名前は公表して営業停止が始まるんですよ。なんでコロナは、プライバシーとかなんとか言って何にもしないという。だから一歩踏み込む強い姿勢というのも要るのかなと。

まあ、そんなジレンマを感じております。答弁ならなかったと思いますけど。

高井委員どうぞ。

**○委員 高井 郁郎**

はい、GIGAスクール構想にしてもなんにしても、これからの時代といいますか、情報が前に比べて格段に多くなっていますので、それを取り入れる力といいますか、それを生かせるか生かせないかで、ずいぶん差が出てくと思うんですよ。ですから、例えばスマホ一つにしても、これを高齢者、年齢が高い人は使えない場面が相当多いと思うんですね、この辺をやっぱり一人残らずといいますかね、できれば一人残らず、情報に取り残される人がないような社会にならないとマズいんじゃないかなと思っています。

**○市長 佐々木 敏夫**

はい、ありがとうございます。

松成委員さんどうですか。

**○委員 松成 康男**

先ほども触れたかと思いますが、この新型コロナウイルス感染症が流行っている中においても、教育現場では、学校訪問にも行かせてもらったんですが、非常に感染対策、密などに気を付けて対策をされてなおかつ、当初、授業ができなかったところが大丈夫かなと思ったところも苦労されてましたんで、非常に安心したといえますか、頭が下がるところです。我々、医療関係としては学校等でクラスターが心配であったんですが、緊急事態宣言が出てる年でも、これから先は大規模な休業休講は、よほどのことがない限りないと思っていますが、今後また、市長が言われてたように対策がどのように進むか未知のところも多々ありますが、教育現場の先生方のご苦労になるかと思いますが、ここまで維持してもらってことに頭が下がります。これからも、よろしくお願ひしたいと思っていますところ。

**○市長 佐々木 敏夫**

はい。宮崎委員さんお願いします。

**○委員 宮崎 みゆき**

私も、このような状況の中で学校に行くと、子ども達元気に、すごく目がキラキラしているんで、先生方に感謝してます。

あと不登校ですね、不登校の子どもが特に中学校で減ってきているので、これはほんとに先生方の努力しかない、その結果だと思っています。子どもが学校に行かないのは親としてとっても困ることで、学校に行けないという子どもが一番かわいそうなので、これはとっても嬉しいことだと思います。

**○市長 佐々木 敏夫**

はい、ありがとうございます。

今日の協議は、また意見交換もおおむね終了の方向にいったのかなと。さりとてまだまだ、今日発表できなかった、そういう問題については、教育長や両課長の方に意見を伝えていただいて、またその中で、新たに取組みをして改善をしていただけたらありがたいなど、そういう意味で積極的に、また報告していただけたらありがたいと思います。

それでは、議長を交代させていただきます。

ありがとうございます。

**5. 閉会**

○市総務課長 佐藤 之則

はい、皆さんお疲れさまでした。ありがとうございました。それでは以上を持ちまして、令和2年度第1回豊後高田市総合教育会議を終了いたします。たいへんどうもありがとうございました。

(14:38 終了)